

## 「ホウセンカと共に」

川崎市立宮内小学校  
六年 江口

佳宏（リイ男）

ぼくはホウセンカを三年生の時から四年間、春から秋にかけて毎年育てています。ホウセンカはぼくにとって、思い出のある、大切な植物です。今年も、ホウセンカは元気に芽を出し、花を咲かせました。

ホウセンカは、黒い小さな種を植えてから一週間くらいいすると、子葉が出てきます。芽が出るかどうか、毎年この待つている時期が一番緊張します。そして最初は茎が細いのですが、どんどん伸びて大きくなるにつれて、

葉が増えていきまます。その頃になると、茎が細か、たのがうそのように、太くなります。強い風が吹いても、決して負けないようになります。その後つぼみが出来て、きれいでピンク色のかわいい花を咲かせてくれます。花がかれるとたくさん種の作り、次の年に命を つなげます。

この前、国語の授業で短歌を書きました。つたのしみは、ホウセンカの芽、見つけたらなつかしき日々、思い出す時。

ホウセンカが土の中から緑の芽を出したのを見つけた時のうれしさと、三年生の大切な思い出をなつかしく思う気持ちを書きました。

三年生は、その年があっただから自分も変わる事ができたと言える、ぼくにとって大事で思い入れのある年です。なぜかというと、心からそんけいできる、素晴らしい先生に出会ったことで、ぼくは変わったからです。

その担任の先生はいつも笑顔で、勉強になる話や、休み時間には楽しい話をしてくれました。

した。先生のおかげで、ぼくはいつのまにか学校が大好きになっただけでした。

先生から、夢に向かって努力することの大切さを学びました。先生に少しでも近づきたくて、学校の先生になりたいという夢も出来ました。三年生を機に、ぼくは色々な面で変わりました。自信をもって、積極的に物事に取り組みようになりました。

そんなふうにぼくを変えてくれた先生でしたが、三年生が終わると残念ながら他の学校

に行っ てしまいました。その先生がなつかし  
 くて暑中見まいを送る時に、ぼくは毎年ハガ  
 キにハウセンカの絵を描いています。三年生  
 の理科の授業で、先生と一緒に植えたハウセ  
 ンカは、ぼくにとっ てやはり特別なのです。  
 先生からの返信は、全てぼくの宝物です。  
 毎回「自分らしく生活してください」という  
 ことが書かれています。「自分らしく」とい  
 う言葉は、ありのままのぼくを先生に認め  
 てもらえている気がして、とてもうれしい気持

ちになります。どんなことがあっても、ぼく  
 らしく努力していきたいと思います。  
 来年は中学生になります。勉強や部活で忙  
 しくなるかもしれませんが、でも、これからも  
 ぼくは、この思い出のハウセンカの種を、毎  
 年植えて大切に育てていきたいと思います。  
 もちろん、ぼく自身も自分らしくがんばっ  
 ていきます。そしてハウセンカの茎のように、  
 たくたくましく、大きく成長していきたく  
 思います。